

# 体育専門学群

School of Physical Education, Health and Sport Sciences

- 学士（体育学）
- Bachelor of Health and Physical Education

## 人材養成目的 / Educational Objectives

優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ、健康、コーチングに関する総合的な知識と最新の科学的知見を活用し、組織を的確にマネジメントして様々な課題を解決できる「知・徳・体」を具備した体育・スポーツ界のリーダーを養成することを目的とします。

<b>養成する人材像</b>	卓越したスポーツパフォーマンス、科学的探究心、そして創造的な実践力を備え、学校、スポーツ行政・クラブ運営、健康・フィットネス、ビジネス、競技スポーツなど多様な分野において国内外の最前線を拓くことのできる人材を養成します。
<b>卒業後の進路</b>	卒業生は学校（教職員）、官公庁（国家・地方公務員）、スポーツ・健康関連企業・団体のほか、様々な業界（メーカー、商社、金融・保険、運輸・旅行、広告・メディア、IT・通信、建設・不動産、サービスなど）に就職しています。選手やスタッフとしてプロチームや実業団の道に進む者もいます。また、例年は卒業生の約25%が国内外の大学院に進学し、研究者や高度専門職業人としての学びを深めています。

- 学士（体育学）
- Bachelor of Health and Physical Education

学位授与の方針 / Diploma Policy

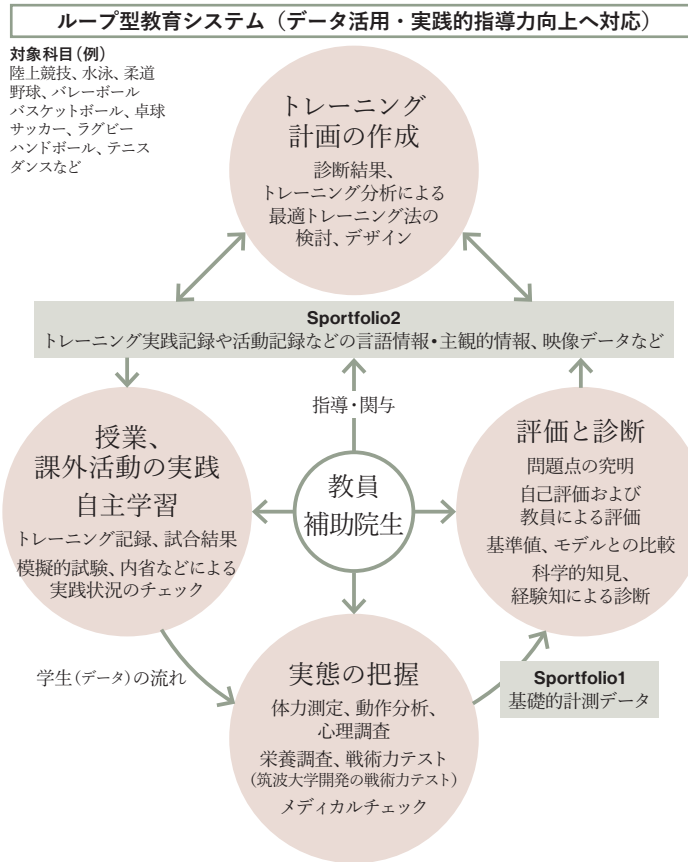
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学群の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（体育学）の学位を授与します。

<b>知識・能力（専門コンピテンス）</b>	1. 体育・スポーツ学の理解	体育・スポーツ学に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。
	2. 体育・スポーツ学の分析能力	体育・スポーツ学に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。
	3. 健康体力学の理解	健康体力学に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。
	4. 健康体力学の分析能力	健康体力学に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。
	5. コーチング学の理解	コーチングに関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。
	6. コーチング学の応用展開力	特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力、あわせて幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。
	7. キャリア形成能力	嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力(外国語能力を含む)を身に付けている。
<b>学修成果の評価に関する方針</b>	学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示し、各授業科目について確認テスト（試験）、レポート、毎回のコメントシート等によって評価を行うとともに、全体の履修状況に応じたコンピテンスの修得状況を評価します。加えて学修成果の集大成として卒業研究を重視し、各卒業研究領域での中間発表、卒論論文および最終発表などを通じて学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）の修得状況を評価します。これらを総合し、最終的には学群教育会議において学位授与の方針に基づく学修成果の最終的な評価を行います。	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学位授与方針に掲げる7つのコンピテンスを身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

<p>教育課程の 編成方針</p>	<p><b>総合的な方針</b> 主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ、健康、コーチングに関する講義や演習、実習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な「知・徳・体」を身に付けます。その際には、体育学を創設した嘉納治五郎先生の教育理念を念頭に、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方について追究します。</p> <p><b>順次性に関する方針</b> 1年次及び2年次には、基礎科目、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野に関する理論的な授業と各種実習（学外を含む）を通して基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。3年次からは分野別専門科目、キャリア支援科目を中心に履修するとともに、自らの関心によって選択した卒業研究領域（38領域）において最新の科学的知見を学修し、卒業論文の執筆を行います。これは学群教育の一つの集大成であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。</p> <p><b>実施に関する方針</b> 卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。</p> <p>コンピテンスと対応する科目区分や科目群、主要科目等は、カリキュラム・マップ（下記URL）を参照して下さい。</p> <p><a href="https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/pdf/2026/physical-education-health-sport-sciences-c.pdf">https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/pdf/2026/physical-education-health-sport-sciences-c.pdf</a></p>
<p>学修の方法 特色的な教育</p>	<p>本学群では、講義や演習に加えてチュートリアル型授業、臨海実習や雪上実習、さらに関係団体でのインターンシップなどを通じた実践的な学びを重視しています。また、正課での学びと運動部活動を教育上の重要な機会と位置づけ、座学で得た理論的知見を自身とチームのパフォーマンス向上に応用する力を養い、ひいては将来指導者として必要となるコーチング力の修得を目指します。さらには国際試合への出場や留学生等との交流を通じて、社会で広く活躍するための国際的感覚を育むことを目指します。</p>



育成する能力とカリキュラム構成			
1年	2年	3年	4年
<b>専門基礎科目(約40単位)</b> 体育学を専門的に学ぶ全ての学生に必要な 最低限の基礎的知識と運動技能を学修する科目群		<b>専門科目(約50単位)</b>	
体育・スポーツ学関連科目(10単位) コーチング学関連科目(4単位) 健康体力学関連科目(10単位) 実技理論・実習(8単位)ほか		キャリア支援科目(10単位) 体育・スポーツの職業領域で活用される 実践的な知識・技術を習得する科目群	
		分野別専門科目(10単位) 体育学を構成する個別専門諸学の専門的知識を 発展的に学習する科目群	
		卒研究領域科目(14単位) 選択した研究領域の最新の知見や研究方法を 習得する演習・実習型科目及び卒業研究	
		実技系科目(3単位) 専門とする運動種目の実技力と指導力の レベルアップを目的とする科目群	
<b>基礎科目(約30単位)</b> 総合科目、外国語、情報処理、国語など			
<b>教職科目</b>			

入学者受入れの方針 / Admission Policy

<p><b>求める人材</b></p>	<p>体育・スポーツ、健康、コーチングに関する分野に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高めて、体育・スポーツの国内的・国際的発展に貢献する情熱と意欲を持った人材。</p>	
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<p>個別学力検査等前期日程</p>	<p>優れた学力及び運動能力を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍が期待できる人材を選抜するために、学力と運動能力の両方を対等に評価します。</p>
	<p>推薦入試</p>	<p>ひとつの運動種目に抜群の技能を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍ができる人材を選抜するために、本学群における修学力とともに、運動技能を重点的に評価します。</p>
	<p>AC 入試</p>	<p>スポーツに関する科学的知識の主体的な活用と論理的思考力、およびそれらに基づいた、ひとつの運動種目における特に優れた技能や卓越した取り組みを多面的に評価します。</p>
	<p>国際バカロレア特別入試</p>	<p>体育・スポーツ、健康、コーチングの分野に強い関心を持ち、将来、それらの分野で国際的に活躍できる学力、運動能力、国際性を総合的に評価します。</p>
	<p>外国学校経験者特別入試</p>	<p>第1種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、思考能力、基礎的な日本語能力、高い英語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。 第2種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、保健体育に関する基礎学力、高い英語能力、日本語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。</p>

学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<p>本学群の学生が主に利用する体育・芸術エリア 5C 棟 2 階に、語学学習や国際的なコミュニケーションを促進するための「Student Commons for Athlete」、教員採用試験関連の指導を行う「体育系教職サポートルーム」を設置し、より効果的な学修を支援しています。また、1 年次秋学期に、大学において自ら探究してみたい学問的な課題を見つけ、その探究の進め方を計画し、文献調査や教員への聞き取りなどを行いながら探究を試みる授業「体育学探究チュートリアル」を開設しています。そこでは、アドバイスを行うチューター教員が探究への相談や助言を行います。</p>
<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<p>日常の講義や演習、実習、運動部活動などに加えて、例えば舞踊論研究領域が主催する「卒業ダンス公演」も、学生にとって貴重な交流の場となっています。毎年、この公演には学年や専門競技・種目の枠を超えて数百名の学生が集い、新たな仲間とともに独創的で迫力あるステージを創り上げています。また、体育スポーツ局が主催する各種のスポーツイベント（TSUKUBA LIVE! など）にも多くの学生が参画し、学んだ知識を実践する場を得ています。</p>

<p><b>教員との交流機会</b></p>	<p>各科目における授業担当教員のほか、クラス担任、卒業研究領域での指導教員、そして運動部活動における教員（顧問、部長、監督、コーチなど）との豊かな交流機会があります。また、学群クラス連絡会を通じて教員と学生との意見交換の場を設けています。総じて本学群担当の約 120 名の教員が各学生の学修を多角的に支援しています。</p>
------------------------	---

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

学生の学習意欲向上のための成績評価観点と基準を設定し、シラバスに明記して、教員と学生双方の共通理解の上に、授業の運営並びに成績の評価を行います。

特に教育課程委員会や FD 委員会を中心に、学生の学修成果・授業アンケートに関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証しています。

幅広い実技・指導能力と学力の修得状況を学生と教員が相互に確認し合い、教育と学習の方向性を明確にするため、実技検定を実施し、各自の運動能力と指導力の向上を支援する体制を整えています。

大学院生と連携した演習を通して、質の高い授業を展開するとともに、大学院進学への意識を啓発します。大学と協定を結んでいる外部団体と連携して研修会等を実施し、国際交流や国際開発への意識を高めます。